

## I 目的

大分県の教育相談体制の現状と課題を把握し、学校が求める支援内容や専門スタッフの効果的活用、ケース会議運営の改善策を検討することにより、組織的な教育相談体制の充実に資する。

## II 内容

- 1 小・中学校及び市教育委員会主催の研修会にて出前研修を行い、不登校事例を用いたブリーフミーティング(BM)の講義・演習を実施。
- 2 出前研修参加者を対象に、アンケート調査を実施し、ブリーフミーティング(BM)の効果や学校現場での実施可能性について調査。
- 3 先進地視察。

## III 結果

### ○出前研修・アンケート調査について

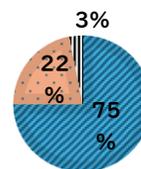
・学校種や学校規模、参加者の立場が異なる複数の場で研修を行ったことで、グループの編成によって意見交換の活発さに影響があることや、異なる学年・立場の教職員が混在することで新たな視点や意見が得やすくなることがわかった。また、事前の情報が少ない状況でも、BMの手法を使えば活発な意見交換と対象者の強みに着目した多様な支援策を導き出せることも明らかとなった。

・これまでのケース会議とBMとの違いや効果について研修後アンケートで尋ねた。BMに対する全ての項目(効率性、発言しやすさ、多様な視点の獲得等)において回答者の9割以上から肯定的な評価が得られた。特に経験年数の少ない教員ほど、BMを通じて心理的なエンパワメント(自信や安心感)を強く受ける傾向が見られた。今後BMを学校で実施できるかという問いに対し僅かではあるが、「そう思わない」という回答もあった。課題としては「方法を知る人が少ない」「時間の確保が難しい」「管理職の理解が必要」が挙げられた。導入への課題は見られるものの、手法自体への評価は概ね肯定的であった。

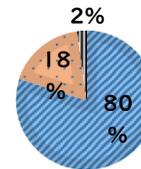
【BM体験後アンケート結果】

■ そう思う  
■ あまり思わない  
■ どちらかと言えばそう思う  
■ そう思わない

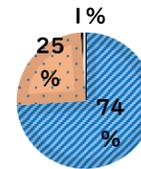
話し合いの焦点が明確



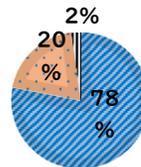
短時間で効率的な講論



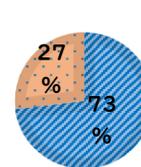
解決に向けた視点



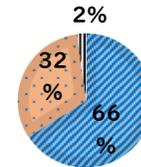
発言しやすい雰囲気



前向きな気持ちになる



チームとしての一体感



## IV まとめ

BMの手法を用いたケース会議は、教職員の心理的負担や個々の抱え込みの軽減に繋がり、チームによる早期対応を実現するための有効な手法であることが検証された。また、限られた時間の中で多角的な視点から具体的な支援策を導き出す効率性も多忙な学校においてBMを導入する利点であることが確認できた。実際に学校への導入・定着を図るためには、ブリーフセラピーの理論を学んだり、カタリストを育成したりするための研修や各学校の実態に応じた柔軟な運用モデルの提示が必要と考える。2年間の調査研究の成果に基づき『チーム支援の充実に向けて-ブリーフミーティングハンドブック-』を作成した。今後は教育相談コーディネーターを中心にハンドブックの活用を促し、「チーム学校」における支援体制のさらなる充実に繋げていきたい。

「チーム支援の充実に向けて」  
ブリーフミーティング  
実践ハンドブック

